

## 養蚕と機織り

〒190-0013 立川市富士見町3-12-34

042-525-0860

2006年7月改訂

### ■立川の養蚕

立川の養蚕は、江戸時代中頃から盛んになりました。養蚕が行われる春から秋まで、農家の生活は、蚕を中心に営まれました。家の造りも、「蚕室造り」と呼ばれるものに改造されました。



はきたて 卵からかえった蚕を鳥の羽で蚕座紙(さんざし)の上に移します。



桑の葉つみ

砂川地区では、万延元年（1860）に蚕の神様である「蚕影神社」が祀られており、当時養蚕が盛んに行われていたことがわかります。また、小正月のマユ玉飾りなど、養蚕に関係した年中行事が、かつてはどの農家でも行われていました。



桑くれ(給桑) 蚕には新鮮な桑の葉を与えなければなりません。



桑の葉を食べる蚕

蚕は桑の葉を食べる時期と眠る時期を4回繰り返します。

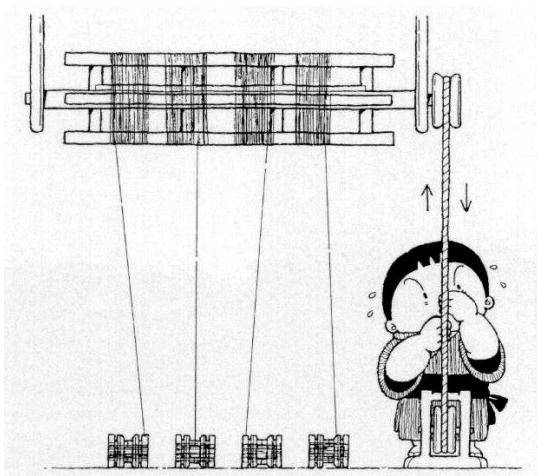


じょうぞく  
上族 成長した蚕は簇の中で絹糸を吐いてマユを  
まぶし  
つくる。



### 糸引き

マユ煮なべで煮たマユから糸を出し、座繰りを回し  
糸枠に巻く。



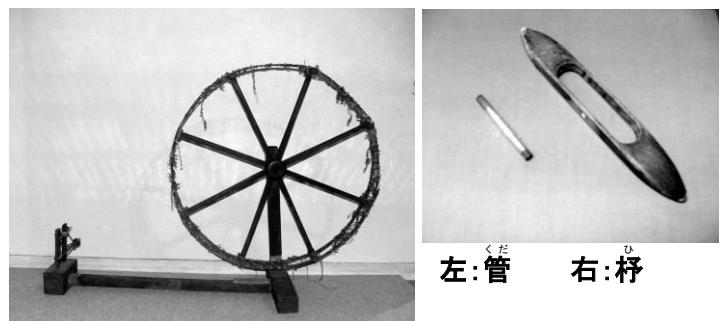
### 糸あげ

糸枠に巻いた糸をあげ枠にとる。

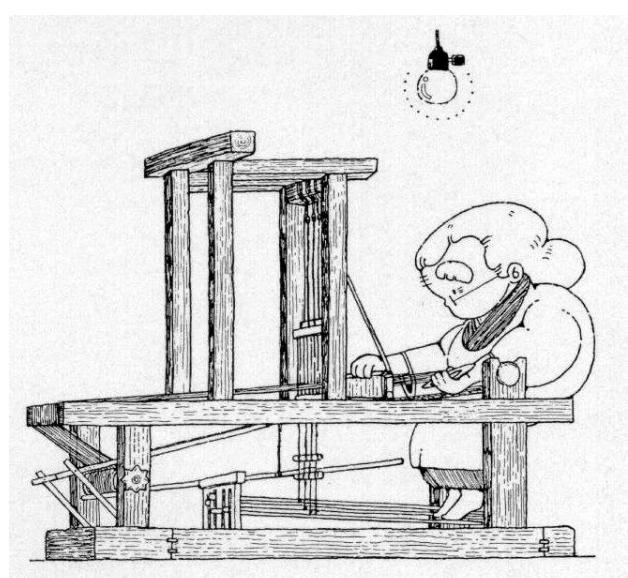
### ■機織り(はたおり)

機織りは女性の仕事であり、農家の副業として行われていました。砂川地区では江戸時代末期から、「砂川太織り」が織られていましたが、明治時代になると、村山地方の「村山がすり」の影響を受け、生産の中心は砂川太織りから村山がすりに移りました。

その後の道具の改良によって、機織はますます盛んになりました。明治 22 年に砂川村で行った調査によれば、村内の農家の 85% にあたる 500 戸で、機織が行われていました。



糸車 摺った糸をこの道具にかけ、管に巻き取る。  
管は杼に入れ、布を織る時に使う。



### 機織り

縄管を杼に入れ、経糸の間を通して、簾で布をしめて織る。